

中野市埋蔵文化財発掘調査報告書

# 安源寺遺跡

(安源寺交差点)

1996. 3

長野県中野市教育委員会

中野市埋蔵文化財発掘調査報告書

# 安源寺遺跡

(安源寺交差点)

1996. 3

長野県中野市教育委員会

## 刊行にあたって

安源寺遺跡は古くから知られた弥生時代後期の著名な遺跡であります。中野市はこうした遺跡の保存と開発の調和に鋭意努力しています。

この度、県道中野豊野停車場線安源寺交差点付近の交通渋滞を緩和するため、交差点の改良工事が計画されました。安源寺交差点は安源寺遺跡の範囲にあたり、その保護について長野県中野建設事務所と保護協議を重ね、その公共性を鑑み、事前調査を実施し、記録保存を図ることになりました。

安源寺交差点付近は掘削によって道路が作られているため、遺構等の残存状況は大変悪いと想定していました。調査もその予想を裏付けることになりましたが、住居跡2基を検出し、安源寺遺跡がより南側にまで広がることを確認しました。

最後になりましたが、今回の調査にご協力を頂いた関係諸機関、地元の皆さんにあつく御礼を申し上げます。

平成8年3月

中野市教育委員会教育長 小林治己

## 例言

本調査報告書は長野県中野建設事務所の委託を受けた中野市教育委員会が実施した県道中野豊野停車場線安源寺交差点改良事業に伴う埋蔵文化財調査の報告書である。

調査は工事の進行に合わせて、平成5年度と6年度に分けて実施し、今回の調査報告書で合わせて報告する。

平成5年度の発掘調査は市学芸員と調査員池田実男が、平成6年度調査は市学芸員と調査員関武が中心となって行った。

## 目次

1 遺跡の位置	3
2 調査成果	5

### 図版目次

第1図 遺跡の位置（その1）	3
第2図 遺跡の位置（その2）	4
第3図 遺跡の位置（その3）	5
第4図 基本土層	5
第5図 第1、2号住居址	6

## 1 遺跡の位置

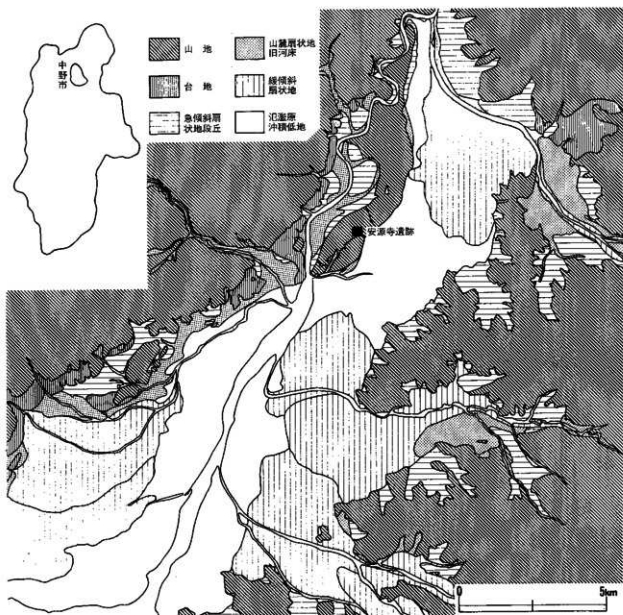
遺跡は長野県中野市安源寺、宮裏地帯他の丘陵上に位置する。遺跡の所在する中野市は長野盆地の最北端、長野盆地と飯山盆地の接する位置にある。

遺跡が立地する丘陵は中野市の西端を画するように、南北に延びる細長い丘陵で、高丘丘陵と呼ばれ、長野盆地の北西縁を形成する西部山地に、千曲川を介在させながら連続している。

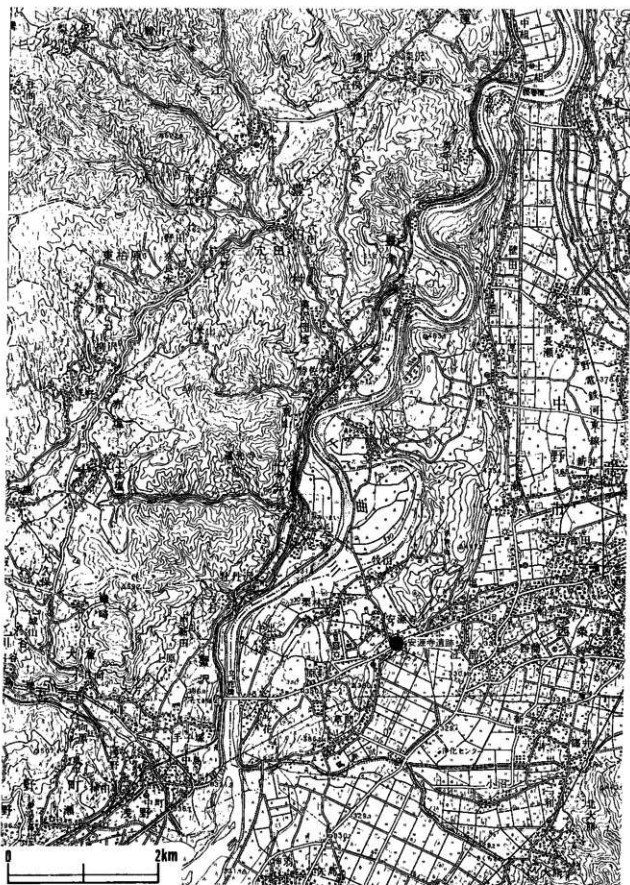
丘陵の東側には長野盆地の沖積面が広がり、その比高は約30メートルを測る。

丘陵の東側には急峻な崖で画され、盆地部と接しているが、頂部から西縁に向かう斜面は平坦で、ゆるやかに丘陵の裾部に至る。

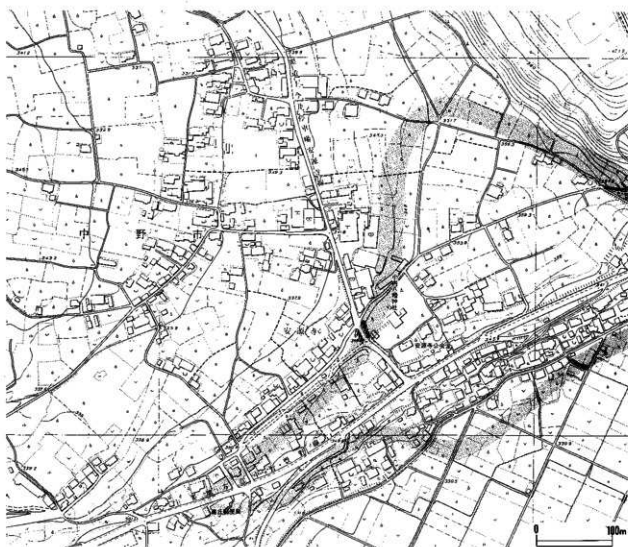
遺跡は丘陵の頂部から、ゆるやかな西斜面に広く分布するものと思われるが、まだその範囲を厳格に確定するにはいたっていない。



1図 遺跡の位置 (その1)



2図 遺跡の位置 (その2)



3図 遺跡の位置 (その3)

## 2 調査成果

今回の調査地点は県道中野豊野停車場線の安源寺交差点、小内八幡神社前の県道の両側である。

調査地点は丘陵の頂部から、わずかに西によった部分に相当するが、県道によって掘削されており、現行道路にそってわずかに丘陵の高まりを残す道路拡幅部分を調査した。道路北側部分は神社の石垣に覆われており、後世の盛り土の可能性があった。

調査の結果、丘陵の頂部からやや西にさがった県道の両側にそれぞれ1基づつ、合計2基の住居跡を確認したが、いずれも、わずかに柱穴や炉跡を残す程度で、遺構の残存状況は極めて悪い。他の拡幅部

分は道路に伴う掘削により、包含層や覆土が削られており、遺構や遺物は確認できなかった。

### 第1号住居 (第5図1)

丘陵の頂部よりやや西に下がった県道南側の拡幅



- I層 表土
- II層 黒褐色、砂質、硬質
- III層 黒色、砂質、硬質
- IV層 黒褐色、黄色粘土を含む、軟質
- V層

4図 基本土層

部分で検出した。拉幅幅は約2mであったため、全形を調査するにはいたらなかった。

住居の東側部分は掘削されており、僅かに立ち上がる西側部分の壁、炉跡、柱穴(3)を検出したにとどまる。

確認した西壁の平面形態からは径約4m前後の円形の住居と考えられるが、残存部分が少なく断言できない。炉はほぼ住居の中央部に位置すると思われ、径約30cmの円形であった。焼土を取り除くと浅い皿状の落ち込みになる。

遺物は床面や炉、柱穴の覆土から検出されたが、いずれも弥生時代後期の土器片であった。

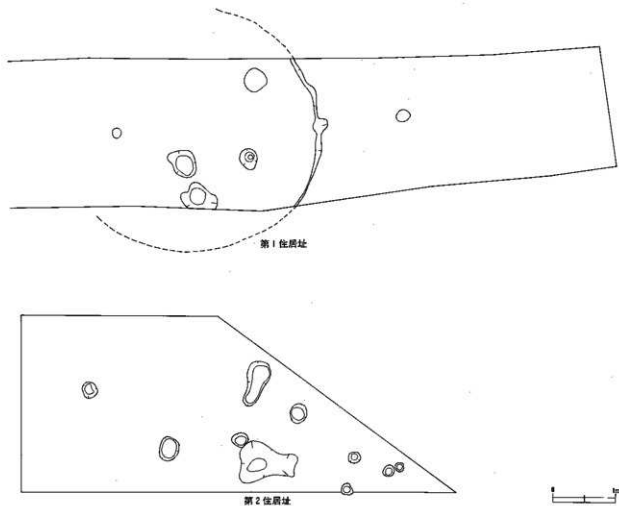
#### 第2号住居(第5図2)

県道を挟んで第1号住居の北側に検出された。神社の石垣に伴うと思われる掘削が調査区全体に認められた。そのため、壁の立ち上がりは確認できなかったが、柱穴や炉と思われる焼土が検出されたことから、住居と判断した。

柱穴は合計9個検出したが、これらがすべて住居に伴うものではないと考える。

炉と思われる焼土の範囲は長軸約1m、短軸約80cmの不整形で浅い落ち込みを伴う。

土器などの遺物は検出されなかった。



5図 第1、第2住居址





1 第2号住居址 (西から)

1 第2号住居址 (東から)



安源寺遺跡発掘調査報告書

印 刷 平成8年3月25日

発 行 日 平成8年3月25日

編 集 ・ 発 行 中野市教育委員会

中野市三好町1-3-19

印 刷 所 葛友印刷株式会社

